
平成 28 年度
まちづくり活動助成 活動視察

名古屋陶磁器産業歴史文化研究会

日本画家 伊東正次 襖絵の世界展 「襖絵の回廊」 日本画教室

■平成 28 年 9 月 11 日（日）10 時～12 時
■場所 東区徳川 1 名古屋陶磁器会館

■名古屋陶磁器産業歴史文化研究会

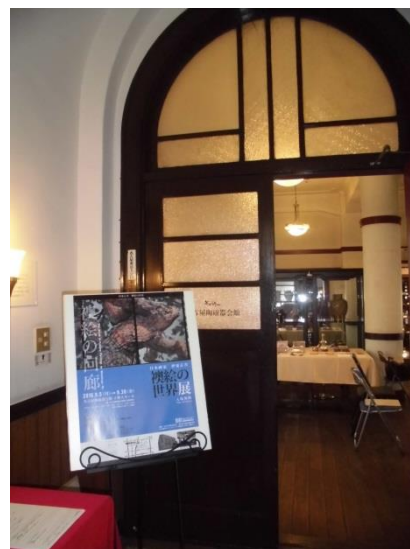
名古屋陶磁器産業歴史文化研究会は、東区「文化のみち徳川園」エリアに位置し、国登録有形文化財の名古屋陶磁器会館で、名古屋の陶磁器産業の歴史・生活文化について調査研究をしている団体です。

■活動のようす

「地域“魅力”アップ部門」で選考された名古屋陶磁器産業歴史文化研究会の企画展「襖絵の回廊」の作者、伊東正次氏による日本画教室の活動視察に伺いました。

9 月 11 日（日）10 時から、東区の名古屋陶磁器会館の 1 階展示室に、事前に予約した参加者 11 名が集まり、日本画教室が行われました。

まずは、伊東正次先生より「洋画」と「日本画」の手法と画材の違いの説明がありました。「洋画」は点で陰影を表現するのに対し、「日本画」は線で平面的に造形を表現します。



日本画教室会場の入口

また、日本画の顔料は岩絵の具等、洋画の顔料に比べて粒子が荒く、発色がよいのが特徴だそうです。顔料を定着させるために^{にかわ}膠を利用します。

次に、伝統的な日本画の手法で色紙のにじみ止めをする「ドーサ引き」と^{ごふん}胡粉を使って^{すいひ}水干絵の具を作る①から④の手順を先生と一緒に行いました。

- ① 溶かした^{にかわ}膠にミヨウバンを加えて膠液を作ります。
 - ② 次に発色をよくする胡粉に膠液を入れダング状になるまで練り、乳鉢に約 100 回程度たたきつけます。
 - ③ ②を水で薄めます。
 - ④ 同じ方向にむらなく均一に色紙に引きま
- す。

使用する絵の具は、2 人 1 組となってすべて指で溶かして作りましたが、現在でもこのような伝統的な手法が行われているそうです。この日は、秋らしい“ほおずき”を題材とし、色紙が乾く間に下書きをしました。



日本画の顔料



乳鉢で、発色をよくする^{ごふん}胡粉を練ります。



高校の美術の顧問や水墨画の経験者等、レベルの高い参加者のみなさんでも、2時間という短時間で、扱い慣れていない画材を使用して完成させるのはとても根気がいるように見えたが、伊東先生の指導もあり、それぞれ素晴らしい作品を仕上げました。



2階の大ホールでは、9月30日（金）まで伊東正次氏の襖絵の世界展「襖絵の回廊」が開催されていました。展示作品の、「桜図」や「松鷹図」には美しさと迫力があり、来場者が座った目線で作品を楽しめるように、鑑賞ポイント



に椅子や御座が用意されていて、襖絵の世界に入り込めるように工夫がされていました。来場者は、「名古屋陶磁器会館」の歴史的な建物と、襖絵が互いに引き立て合う空間を楽しんでいました。



今後も、「名古屋陶磁器会館」の建物の魅力を活かし、質の高い文化・芸術作品の企画展示等によって「文化のみち」の人の流れの創出や、地域住民の文化水準の向上につながることを期待します。

